

真夏の暑さから一転、真冬の寒さへと、気候も落ち着きをなくしています。ところで、こういった場合、「落ち着きをなくす」は「異常変動を示す（不安定である）」などの表現に置き換えることもできます。前者の大和言葉だけによる表現は情緒的ですし、漢語を混じった後者の表現のほうはより理屈っぽい印象があります。

日本人は、心の奥底を表す内向的表現には大和言葉を用い、論理的・外向的表現には漢語を使うということを長い時間をかけて身につけてきました。医学用語や法律用語には漢語が多用される一方、和歌はもちろんのこと、しみじみとした心情を歌い上げる現代の歌詞でも大和言葉が中心なのは、その表れです。ある病変を「境がぼんやりした赤っぽく平たいもの」というより「境界不鮮明な紅斑」のほうが字数も少なくて頭のなかもすっきりと整理されます。また、病名は、一般用語は大和言葉（例：しろなまず）、医学用語は漢語（例：尋常性白斑）というのが一般的ですが、一般用語のほうにどきっとする言葉が多いのは偶然ではありません。

じっくりと培われてきた大和言葉と漢語による日本語の絶妙な組み立ては、日本人の考え方の基盤にもなっています。戦後すぐに戦前教育否定の一環として漢字撤廃の動きがあり、その流れのなかで、当用漢字設定等による漢字制限が行われたことはご存じの通りです。それは良い面もあったかもしれませんが、こういった権力による人工的な言葉の改変は、言葉と密接につながる「事象を正確に把握する力」に負の遺産を背負わせてしまうことになっていきます。

現在、日本語で目立っているのは、カタカナ語の蔓延です。欧米語を導入する際、意味をしっかりと理解したうえで適切な漢字で表して日本語のなかに取り入れてきた手間（固有名詞や漢字表記が難しい言葉を除いて）は省かれ、欧米語の発音をカタカナで表記したものをそのまま使うのがトレンド（といった使い方です）になっています。そういった外来語取り入れに関する省力化が、物事の認識に影響しないか、若干の懸念はありますが、わかりづらいカタカナ語ばかりの日本語になってしまうことは誰も望んでいませんので、おそらくはほどほどのところで自然に折り合いがつくのだと思います。大事なことは、行き過ぎのように思えるカタカナ語であってさえ、その扱いについては自然の調和に任ずることです（本誌の投稿論文はビジネス用語に比べ遥かに自制が効いています）。過去にあった権力による漢字狩りのような不自然な言葉の改変だけは、歴史の教訓として、行われたいことを願っています。

（土田哲也）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第63巻 第12号 11月増大号

2021年11月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 4,950 円（本体 4,500 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。